

編集・発行責任者；木下耕一 〒157-0066 東京都世田谷区成城 8-24-1 - A-201  
Fax&Tel 03 - 3482 - 5257 / E-Mail ; kino-coh1@amy.hi-ho.ne.jp

## 全通研岐阜集会に参加しました！

今なぜ情報提供施設か

今回の討論集会では、昨年からの新たにできた第三三分科会『聴覚障害者関連施設』の分科会に参加した。

昨年のこの分科会では、どんぐりから本間君が「仲間の自立支援」をテーマにレポート発表している。主に各地のろう重複施設における問題提起がなされた。

今年は、加えて情報提供施設の役割とその取り組みについて議論することになった。

正直言って、ろう重複施設と情報提供施設をこつちやに議論する事に抵抗があった。しかし、議論する中で「今なぜ情報提供施設なのか」ということがおぼろげながら分かってきた。

社会福祉基礎構造改革

日本の福祉を取り巻く環境が大きく変わろうとして

いる、このことに気づかされたのが今集会に参加しての一番の収穫だった。

けれども、それはすでに一昨年の夏から始まっていた。九十七年八月厚生省に設置された「社会福祉事業等のあり方に関する検討会」は、十一月「社会福祉の基礎構造改革について(主要な論点)」を提出。この時、今後の社会福祉法人の果たしていくべき役割、意義などについて見直しが必要であると提起していた。

東京都財政健全化計画

同じ時期「東京都財政健全化計画実施案」がまとまり、この年の十一月二十三日に行われた東京支部定例学習会のパネルディスカッション「青島さん いじわるはマンガだけにしてよ」での石川芳郎さんの報告で「東京の福祉がヤバイ」と

感じながら、僕はそれを日本全体の流れだとは理解していなかった。

施設福祉から地域福祉へ

半年後の九十八年六月「社会福祉基礎構造改革について(中間まとめ)」発表。ここで明らかになったのが「施設から地域福祉へ」「措置から契約へ」という福祉の方向性、「効率化」「受益者負担」という考え方だった。

僕は、そんなヤバイ状況を全く知らずにいた。四月の人事異動以来仕事に忙しくなったのかまけて私の情報源である「福祉広報」(東京都社会福祉協議会発行)を読むことをすっかりサボっていた。

今すぐ勉強を始めよう

昨年十二月に出た「社会福祉基礎構造改革を進めるに当たって(追加意見)」で

はやたらと「福祉サービス」という言葉が目立つ。いずれの資料も僕はまだ十分読みこんでいない。勉強の緊急性を痛感した。

そんな福祉の流れに対抗する上で聴覚障害者関係で有効な手段となるのが情報提供施設なのではないか、というのが岐阜集会事務局の問題提起だったようだ。つまり「施設」建設は今後ますます難しくなってくる、ということなのだ。

長期的展望ある運動を

情報提供施設を地域福祉運動の核にして長期的展望に立つて、ろう重複障害者問題やろう老人問題に取り組んでいかなければ今の福祉の流れを乗り切れないというのだ。かたつむりの花田所長が言われていた「早急に二種事業に対する取り組みを」とはこのことだったのかと気づいた集会でもあった。(集会報告は別途作成中です)